

## ヒブ(Hib)ワクチンご存知ですか？

### 今月から予防接種ができるようになります。

ヒブ(Hib)とは、ヘモフィルス属インフルエンザb型菌のことで、乳幼児の細菌性髄膜炎の原因菌です。細菌性髄膜炎は、細菌が脳に感染する重篤な感染症です。日本では年間約 1,000 人が感染し、死亡率5%で、25%の人に重い後遺症(てんかん、脳性麻痺、聴覚障害など)が残ります。その細菌性髄膜炎の60%の原因菌がヒブです。



冬に流行するインフルエンザはインフルエンザウィルスが原因ですが、以前はこのインフルエンザ菌(Hib)が原因と考えられていました。従って、全く違うものです。

ヒブワクチン接種は、欧米では20年前から施行されており、米国ではヒブ罹患率が100分の1にまで減少しています。10年前の1998年に世界保健機構(WHO)が、ヒブワクチンの乳児への定期接種を推奨する声明を出した事から、現在では世界110カ国以上で実施されており、東アジアで接種できないのは日本と北朝鮮だけなのです。

「防げる病気で命を失わないこと」はこどもの権利条約でもうたわれており、ヒブ髄膜炎から子どもを守るためにも早く日本でも実施が望まれていました。そしてやっと今月(12月下旬)からヒブワクチン接種が可能となりました。



ヒブ髄膜炎の患者は1歳未満の乳児が大半なので、生後2ヶ月から接種ができ、5歳未満までの期間です。DPT3種混合ワクチンと同様に；

- ① 2~6ヶ月の乳児：初回接種3回(4~8週間隔)、1年後追加1回(計4回)
- ② 7~12ヶ月未満：初回2回(4~8週間隔)、1年後追加1回(計3回)
- ③ 1歳~5歳未満：1回のみ接種です。

※ DPT3種混合ワクチンとヒブワクチン、インフルエンザワクチンとヒブワクチンの同時接種も可能です。

副作用はDPTワクチンと同等で、これまで外国では1億5千万人以上の人が接種していますが、重篤な副作用の報告はありません。

問題は費用の件です。1回7,000円程になりそうです。外国では公費負担が多いのですが、日本ではしばらく自己負担となるでしょう。鹿児島市などでは、いち早く市が1回3,000円を補助するという事が決まっています。

12月下旬から日本全国一斉に始まりまですのでワクチン数に限りがあります。ヒブワクチン接種をご希望の方は、予約が必要です。スタッフへご相談下さい。

(たまなは)